
Jolly intruder

KYOS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Jolly intruder

【Nコード】

N7153Y

【作者名】

KYOS

【あらすじ】

「The Defense Network」第2弾！
春の一大イベント、ゴールデンウィーク。

とくにやることもなく、学校でのんびり暇をつぶしをしていた、結弦と詩織。

そんな二人に先生が、サーバーのメンテナンスの手伝いを頼む。

最初はただのメンテナンスだったのに、学園のネットワークに外部から攻撃を受けていることが発覚して事態は一変。

静かな連休があわただしい攻防戦に発展する！

code 001: (前書き)

初めての方、初めまして！

前作から読んでくださってる方、お久しぶりです！

作者のKYOSです。

今回はサイバー攻撃、ハッキングなどをテーマにしています。

ない知識を総動員して分かりやすく書いていくので、どうかお楽しみください。

code 001:

/ / - - - - - 結弦 - - - - -
- - - - -

「えっ？詩織今年は家に帰らないの？」

「うん。今年のゴールデンウィークはうちの道場の門下生集めて合宿に行くんだって。両親もついて行くらしいし、家帰っても誰もいないしね」

「ふ〜ん」

ゴールデンウィーク直前の金曜日の夜。

数多くの生徒が行きかう食堂で、いつものメンバーと夕食をとっていた。

話題はもっぱらゴールデンウィークの予定の話。

竜崎、北園はそれぞれ九州と東京の家に、神池は部活の合宿で大阪のほうに行くらしい。

「仲村はその合宿に行かないでいいのか？」

「行ったって門下生と違ってやることないもん。それに練習の邪魔しちゃう悪いでしょ？」

「そんなものなのか？」

「そんなもんだよ？」

詩織もいつもなら家に帰るけど、今の話を聞く限りじゃ今年は帰らないらしい。

俺はもとからおじさんの家に帰るつもりはないし、となるとやることがないんだよね、毎年。

そんじゃ今年は、詩織誘って日帰りどこか遊びに行ってみるか。

「……………づる。結弦」

「んっ？」

「何ぼくとしてんだ？」

おっと。

詩織とどこ行こうか考えていたら、箸が止まっていたらしい。

左隣に座っている神池が、俺を覗き込んできた。

……さりげなく、俺から死角になる場所で俺のとなかつを掴もうとしながら。

シュカツ！

何回かミスって、やっとつまみあげた神池の箸のとなかつを、素早く奪還。

「大丈夫。ちよつと考え事してたんだ」

「そ、そうか……。ならよかった……」

不敵な笑みを浮かべながら答えてやると、若干顔を引きつらせながら自分の席へと戻っていった。

くそつ。「何考えてたんだ？」、「みたいなことを聞いてきたら成敗するチャンスだったんだが…」。

まあ、いい。

代わりに竜崎が反撃してくれた。

「……………くそ。ばれないと思ったのに……………って俺のステーキが半分になつてゐる!？」

席に戻って自分の皿を見た神池が叫ぶ。

それにしても、あの短時間でよくもあんなに食べれたな、竜崎の奴。

「神池。バカやってないでさっさと食べなさいよ。もうみんな食べ終わったわよ」

しばらく啞然としてた神池に、北園がテーブルに両肘をついて、暇そうに言う。

その声にハッとして周りを見渡して、慌てて箸を動かし始めた。ものすごいハイペースだな。そんなに急いで食ってるとのど詰まるぞ。

「もごもご……んっ！？んっっ！……！」

やっぱり詰ませた。

とりあえず神池のコップの中にラー油をたっぷりと入れておこう。おもしろそうだから。

そんな俺を、詩織がジト目で見てるような気がするが、気のせいだと信じとこう。

「んっっ！……！」

ちょうどラー油をもとの位置に戻して証拠隠滅が終わった瞬間に、そのコップを神池が一気におろす。

一気飲みなんて自殺行為でしょ。

「うぎゃ……！！……！」

8時を過ぎて、生徒もまばらな食堂で、神池の叫び声が轟いた。

code 002:

「それじゃあ連休明けにね」

「お土産よろしくな」

「結弦、おやすみ」

「ああ、おやすみ」

神池が火を噴きながらもなんとか食べ終えたところで、今日は解散することになった。

北園にお土産を頼みながら、女子寮に帰る二人を手を振りながら見送る。

横には同じように手を振る竜崎と、甘すぎると評判の桃ジュースを一息に飲む神池がいる。

「よくそんな甘すぎるものを一気飲みできるな」

「られのふえいふあ、られの」

まだ舌が回らないみたいだ。

まあ、普通のラー油じゃなくって、この学園特性の殺人的な辛さを誇る特性ラー油を入れたのはやりすぎだったとは思う。後悔はしてないがな。

「それじゃ、俺らも帰るか」

「そうだな、俺も明日朝早いし」

竜崎とそんなことを話しながら、俺たちも男子寮へと歩く。

「ちょっと待てコラッ!」

とかなんとか叫びながら、神池も後ろを走ってくる。

「おっ。やっと声が戻ったのか？」

「まったく。結弦のおかげでひどい目にあっただぜ」

「俺は何もしてないぞ。お前のコップに殺人ラー油を混ぜただけだ」

「それだそれっ！それのおかげで死にかけたんだよっ！」

「あゝ。悪い、さすがに殺人ラー油はやばかったな」

「分かればいいけどよ」

「今度はタバスコを用意しとく」

「一緒だっ！！！」

まったく、うるさいな。

仕方ないから次からは普通のラー油にしといてやろう。

そんなバカ話をしていると、いつの間にか男子寮の入り口に。

「それじゃ、また連休明けにな」

「おう」

「休み明けは覚えてろよ！」

なんか悪役みたいな捨て台詞を吐いてる人が一人いるんですが。
まあ、いいか。

部屋の間隔が違ふ俺は、寮に入っつてすぐ二人と別れた。

「さてと、ニュースでも眺めるか」

一人でそんなことを呟きながら部屋に入っつて、パソコンの電源を入れる。

数秒立って真っ黒な画面に白い明かりが灯る。

「何か面白そうな記事はないかなっ」と

『あのプログラム』ができてから、皆ちよくちよくプログラムを動かしてるみたいだけど、俺も暇つぶしに作ってみたのがこれだ。名づけるなら『ニュース収集プログラム』。

yahooニュースやMSNニュースみたいなサイトを指定しておいて、興味のある単語を登録しておく。

俺の場合だと『Windows』、『Linux』、『セキュリティ』、その他多数。

それでプログラムを走らせておく。

そうすると、定期的にそのサイトを見て回って、登録した単語が見つかったらアドレスをデータベースに追加する。

そうやって集めたニュース記事を、俺は今眺めてるわけだ。

code 003:

「最近、サイバー攻撃のニュースが多いな」

このプログラムを動かして1週間。

その前から暇つぶしにニュースを見てたけど、ここ最近サイバー攻撃関連のニュースが増えてる気がする。

もちろん、このプログラムではパソコン関連のニュースだけを取ってきてるから、他のニュースと一緒に見てた時より多く感じてるだけかもしれないけど。

それでも今日だけでサイバー攻撃を受けたニュースが4件。

3件は海外の会社やネットのコミュニティのサイトが攻撃を受けたとかだけど、残りの1件は日本のサイトだ。

『日本アミーバ研究協会のサイトがDDoS攻撃の被害。サイトが一時見られなくなる』

……そんな協会があったんだ。世の中は広いもんだ。

それはともかく。

とりあえずリンクをクリックつと。

『日本アミーバ研究協会のサイトがサイバー攻撃を受け、一時サイトが見られなくなった。』

被害にあったのはアミーバの研究を専門に行ってる日本アミーバ研究協会の公式サイトだ。

同サイトは30日未明から繋がりにくくなり、午前2時過ぎから30日正午過ぎまでまったく繋がらなくなったという。

協会は警察に被害届をだし、警察はそれを受理。捜査を始めた。

警察への取材によると、同サイトはDDoS攻撃を受けたのではな

いかとみて調べている』

ふん。DDoS攻撃ね。

どっかのハッカーグループが攻撃でもしてんのか？

ちなみにDDoS攻撃というのは、攻撃目標に対してインターネットを通じて集団で攻撃する方法だ。

イメージとしては、とりあえず電話を想像してほしい。

ある家の電話に集団でいたずら電話を掛ける。

するとその家の電話では、どこにも掛けることができないし、その家に電話を掛けようとしてもなかなか繋がらなくなる。

そのサイト版がDDoS攻撃だ。

この攻撃は数千、数万のパソコンから一斉に攻撃をしかけるが、実際の犯人は数人の場合が多い。

それは、犯人があらかじめセキュリティの甘いパソコンに不正プログラムを仕掛けて、いつでもそのパソコンを乗っ取れるようにしているからだ。

そして犯人が攻撃をするときにその不正プログラムを動かして、ターゲットに攻撃を仕掛ける。

ほとんどの場合がこのパターンだ。

攻撃方法は何でもいいんだけど。

何で最近この手の攻撃が増えてるんだ？

ニュースを見てる限り愉快犯みたいだけど、だからって多すぎる気がする。

……わかんねえ。

だけど俺のサーバも、もうちょっとセキュリティを強くしたほうがよさそうだな。踏み台にされるのも嫌だし。

「ふあゝあゝあゝ」

眠くなってきたしそろそろ寝るか。

セキュリティを強化するのは明日にでもやろう。
パソコンをシャットダウンして、部屋着に着替える。
そして布団の中に入ると、さっさと意識を手放すのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7153y/>

Jolly intruder

2011年11月27日18時51分発行